

令和4年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：小野に児童を増やすために

【日 時】 令和4年3月1日（火） 18時30分 ～ 19時30分
【出席者】 ○篠崎市長 ○（参加者6名） 小野地区子ども会育成連絡協議会 副会長 : 才木 祥子 小野小学校5年 : 才木 晃太郎 小野地区民生児童委員協議会 主任児童委員 : 齋藤 恵 小野小学校4年 : 齋藤 奈穂 小野小学校教護会 会長 : 藤田 孝輔 小野小学校6年 : 藤田 翔太郎 ○小野市民センター所長 ○事務局（広報広聴課）
【概 要】 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 開催目的説明 5 意見交換・懇談閉会 6 閉会
【意見交換・懇談】
○「小野小学校生徒による小野の紹介」 【小野小学校4年】 ・小野地区では、地域の人がカヌーの乗り方を教えてくれ、カヌーを漕ぎながら小野湖周辺の自然観察、バードウォッチングもできる。 ・昨年学校で、小野の自然図鑑を作成した。 ・小野には「アクトビレッジおの」もある。ぜひ市長もカヌーを体験してほしい。 【小野小学校6年】 ・小野地区は、地域の人々がとても優しい。 ・小野小学校では、自然や環境を活かしたふれあい学習という授業がある。お茶作りや和紙作りを体験できる。ぜひ体験してもらいたい。 【小野小学校5年】 ・小野小学校の魅力は、生徒同士の関わりが深いことである。複式授業で、先生との関わりも深く、手厚い指導で理解度に合わせた学習ができる。 ・児童総会では、全校児童がいろいろな意見を出し合う。運動会では、全校生徒で行う一輪車に取り組んだ。

- ・行事を通じ、より良い関係を築いていく小野小学校の児童は、家族のような関係になっている。
- ・現在児童総数が 18 人だが、このままいけば、令和 8 年度には 9 人になる。私たちは、小野小学校がこれからも続いてほしいので、多くの人が小野に来て、小野の良さを感じてほしい。

○特認校制度の現状と課題

【教護会会長】

- ・小野小学校では特任校制度の利用実績がない。課題は児童の通学環境である。公共交通機関が利用しづらいこと、代替の交通手段がないことが、遠距離通学をする児童、親にとって問題となっている。

【民生児童委員協議会】

- ・小野は山口市嘉川から車で 10 分のところにある。コミュニティーバスの小野きずな号に、嘉川から小野小までのルートがあるため、これを利用して隣市の住宅化が進む嘉川地区の子どもを小野に呼び込むことができないか。
- ・福岡に住む姪は特認校制度を利用し、1 時間 10 分かけて船に乗り、島の小学校に通い始めた。小野の魅力を理解してもらえらるなら、同様に他の地域から通学する可能性があると思う。

【子ども会育成連絡協議会副会長】

- ・買い物代行サービスを行う有償ボランティアのハッピーライフおのを利用して、子どもの小学校への送迎用ができないか。
- ・厚東川中学校のスクールバスを何台か特認校用として利用できないか。課題は市街地からの距離だが、家の前で送り出し、迎え入れがあれば親子とも安心である。
- ・不登校児は特認校制度の利用ができないが、不登校児の受け入れについても特認校制度の中で検討できないか。
- ・これらの提案を前向きに検討してほしい。

【市長】

- ・地域の特性を活かした体験学習を広めていきたい。
- ・学校の適正化配置の検討を新年度より始めていくが、コストや効率ではなく、子どもたちにとって最善の教育環境が何かを重視する。北部地域の学校の特色を大切にしながら、教育環境を整えていきたい。
- ・今回小野の児童をどうやって増やしていくかについて提案をいただいたが、課題も見えてきた。昨年 11 月の「中山間地域における課題解決に向けての情報交換について」の市政懇談会でも特認校制度のことが議題となったが、難しい問題だと感じた。
- ・山口市嘉川をターゲットにするという案は、山口市との調整が必要である。
- ・有償ボランティアの活用は法的な部分も含め、検討する。
- ・不登校児の対応については、新年度よりふれあい学級を充実させ、フリースクールに通う子どもの世帯に助成を行うなど学びの選択肢を増やす予定である。

- ・コロナ禍で東京から移住してくる方も増えてきており、特認校制度を周知していく必要性を感じている。
- ・小野小学校の教育環境などを多くの方に知ってもらうことが大切である。
- ・小野を含む北部では、農業が主要な産業である。小野で農業をする人が、稼げる農業環境を整え、農業振興に手厚い支援を行うことで、移住へと繋げたい。
- ・今回、小野小学校の素晴らしさをPRしてもらった。北部全地区の学校の素晴らしさを、動画やSNSなどで市内の保護者や移住希望者に見てもらう機会を増やしていきたい。
- ・新年度の市では組織改正を実施するが、北部地域振興について、現場を担当する職員を充実させたい。地域の人とともに地域の魅力を伸ばしていくという流れを作りたい。

○その他

【教護会会長】

- ・私が小野中学校を卒業、高校に行ってショックを受けたことは、多様な人がいるということだった。
- ・小野に子どもを呼ぶことも大事だが、小野の子どもが市街地の学校に行けるような双方向で交流するのも面白い。

【市長】

- ・学校を選ぶ選択肢があるということをまずは保護者に知ってもらいたい。
- ・中心市街地でも部活動で学校は選べないが、小野にいながら集団スポーツがしたいという子どもがいれば、その学校に行って公式試合に出場できる制度があってもいい。

【子ども会育成連絡協議会副会長】

- ・私の娘が4年生になる4年後には、全校児童が10人を切ってしまう。この2年以内に1組でも2組でも移住者を迎えたい。

【市長】

- ・2年間という具体的な目標も聞けたので、新年度から各学校、教育委員会と協議していきたい。この2年間、危機感を持って、1組でも2組でも家族を増やしていくところを本格的に取り組んでいきたい。
- ・北部地域は現時点で学校の統廃合の予定はない。

【市長】

- ・皆さんの小野小学校を愛する気持ちをひしひしと感じた。少しずつでも人が増えていけるような地域づくりを考えていきたい。
- ・カヌーはいつか乗ってみたい。一輪車の映像は感動した。小規模校の強みだと感じた。
- ・山口市との特任校制度の関係、有償ボランティアの活用、不登校児童への配慮についての提言についてはすぐに動きたい。引き続き皆さんの力を貸してほしい。

